

依存問題のR・S・Nが2年間の電話相談まとめ 1295件(71%)にニーズに見合う他機関紹介 真剣な取り組み姿勢表れた緻密な報告書

全日遊連の第三者機関「ばちんこ依存問題相談機関リカバリーサポート・ネットワーク」(R・S・N、西村直之代表)は6月1日、06年度と07年度(06年4月～08年3月)2年間の電話相談事業の内容をまとめた報告書(A4判20ページ)を作成、各業界誌に発表した。あらゆる角度から幅広く数値化、項目分けして、1項目ごとに傾向を解説するにとどまらず今後の研究課題や問題点に言及した、非常に真剣な取り組み姿勢が表れた緻密な報告書だ。開始から2年間の電話相談件数は1835件で、そのうち1295件(71%)に相談内容のニーズに見合った他の機関を紹介している。

容を基礎データとして積み重ね、将来的にはそれを基に回復支援システムの構築、普及を目指す。早くても5年、10年かかる仕事だろう。つまり電話相談自体が実態調査

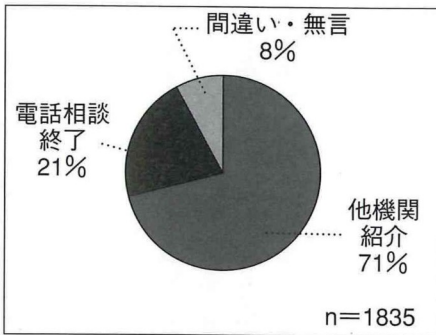
の役割を担っていて、常時3人の相談員が午前10時から午後4時までの6時間、月曜から金曜まで相談を受けている。すべての相談員は日々研修を行い、スーパーバイザーからトレーニングを受けているという。06年度と比べ07年度のほうが依存に悩む本人からの相談が多く、家族・友人からの相談が減少。

本人の性別は遊技参加者の男女比に近く、依存問題には男女差がないことが分かる。年齢は30代が最も多いが10代から90代まで幅広い。パチンコ・パチスロの開始年齢は男性の多くは10代、20代に開始していて、早期に始めた男性に問題が生じやすい可能性がある。女性には20代開始が多いが男性ほどではなく、開始年齢が全年代層に及び、どの年代から始めても問題が生じやすい疑いがある「今後の追跡すべき課題」としている。

パチンコの依存問題は実態さえ分からず、アルコールや薬物依存

のような回復支援システムがないのが現状。R・S・Nの活動は、電話

対応の結果

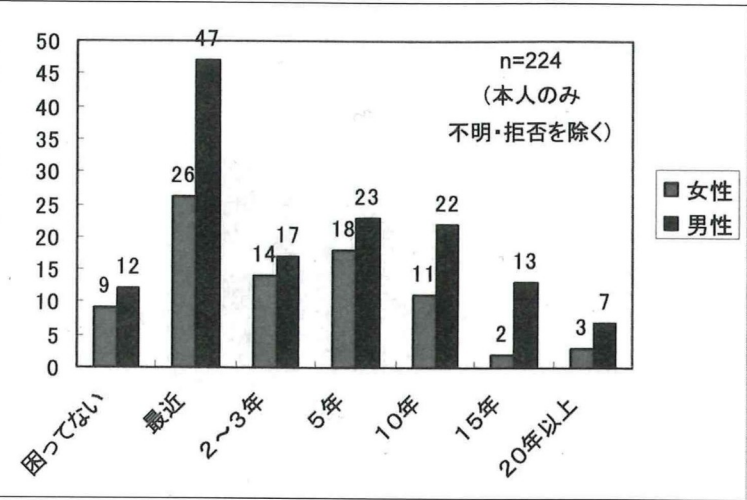


他機関紹介1295件、電話相談終了394件、間違い・無言146件

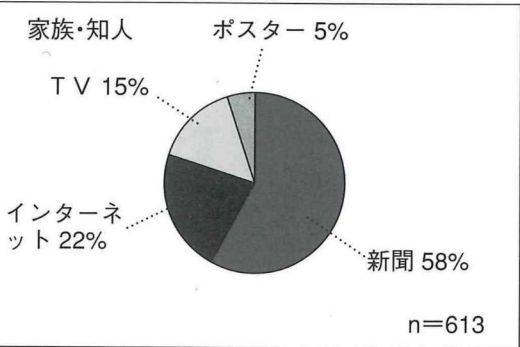
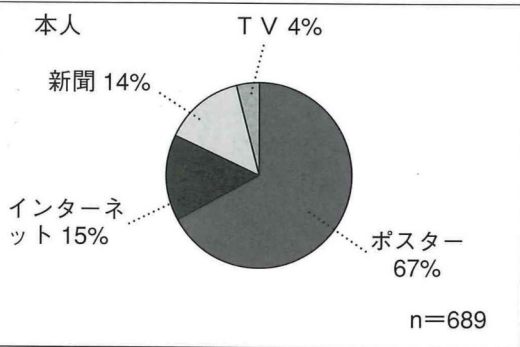
本人の半数以上が借金をして、返済方法より、どうやったらパチンコに行かずにいられるかが相談内容。相談者の知りたい内容はやる方法、やめさせる方法だ。相談電話の21%は話だけで終了、71%は他の相談機関を紹介。

精神保健福祉センターや当事者相互援助グループ(ギャンブラーズ・アノニマス、ギャンマン、ギヤマノン)を紹介することが多いと

問題化した時期/性別比較 (2007年度のみ)



相談経路



紹介先 (複数回答)

県精神保健福祉センター	570
紹介先無 (間違いを含む)	514
ギャンブラーズ・アノニマス	421
ギヤマノン	227
ワンデーポート	208
医療機関 (主治医戻し含む)	144
市精神保健福祉センター	135
その他	104
司法書士	58
保健所	20
その他のステップグループ	12
クレサラの会	6
弁護士会	6
消費生活センター	4
福祉事務所	2

※...グラフ・表のうち単位のない数字は件数